

国際高麗学会日本支部 第24回学術大会

シンポジウム

“韓国併合” 110年

日本による植民地支配の比較研究

戸籍制度から見る
人的管理制度を中心にオンライン
開催

日本による植民地支配に関する研究は、支配が直接的あるいは間接的に及んだ各地域(中国大陸、台湾、朝鮮半島)単位ごとに、諸学術領域(歴史学、社会学、人類学など)においてその成果が蓄積されてきた。しかしながら、それぞれの地域間で何がどう異なり共通するのかといった比較研究はさほど進んでいない。

そこで、「韓国併合」から110年となる今大会では、日本による植民地研究の次のステージともいえる比較研究への試みとして「人的管理制度」という観点から、具体的には戸籍制度をとおして植民地当時の運用実態や現在への影響まで検討することにより、日本の植民地支配の特異性と限界、拡散する影響力について分析することが可能になるのではないかと考える。

2020年

10月31日 土

10:00 理事会
11:00 総会

11:30 【第一部】自由論題報告 司会：石川亮太(立命館大学)

1. 「牛頭天王信仰と明治政府の弾圧」 姜健栄 | KMAJ関西
2. 「『京城日報』・『毎日申報』による
家庭博覧会(1915)とその意味」 朴志慧 | 東京大学大学院

13:00 【第二部】シンポジウム 司会：伊地知紀子 | 大阪市立大学

基調講演 水野直樹 | 京都大学 名誉教授

「近代朝鮮の戸籍にみる社会変容」

パネリスト報告 遠藤正敬 | 早稲田大学

「朝鮮統治における戸籍政策のもつ意味」

姜信潤 | 姜信潤司法書士事務所

「相続実務からみた在日韓国・朝鮮人の身分登録」

高希麗 | 後藤・安田記念東京都市研究所

「憲法からみる戸籍制度」

討論・質疑応答